

平成28年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ

平成 29 年 3 月

兵庫県教育委員会

目 次

I 平成28年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況 のまとめ	
1 参加生徒数等について	・・・ 1
2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について	・・・ 2
3 市立特別支援学校の活動について	・・・ 5
II 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション） 実施状況について	・・・ 6
[資料1] 平成28年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実 施後アンケート調査の結果	・・・ 7
[資料2] 平成28年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員 会について	・・・ 13

I 平成28年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況のまとめ

1 参加生徒数等について

- (1) 実施校は、359校（全公立中学校341校、県立中等教育学校1校、市立特別支援学校17校）
 6月を中心に実施した学校：226校(63.0%)（内数：市立特別支援学校6校）
 11月を中心に実施した学校：133校(37.0%)（内数：市立特別支援学校11校）
- (2) 実施期間は、平成28年5月9日～平成28年12月2日
- (3) 参加生徒数は、46,518名（内数：特別支援学級697名、市立特別支援学校150名）
- (4) 班数は、17,365班で1班につき生徒平均2.7名 ※19年間：948,315名
- (5) 活動場所数は、17,383カ所で1カ所につき生徒平均2.7名
- (6) 指導ボランティアの数は、22,906名でボランティア1名につき生徒平均2.0名
- (7) 市立特別支援学校の介助補助員数は、219名

年度	実施校数	2年生		班の数	活動場所の数	指導ボランティアの数
		学級数	生徒数			
H28	359	1,443	46,518	17,365	17,383	22,906
H27	362	1,418	47,523	17,657	17,557	22,531
H26	362	1,409	48,045	18,040	17,373	22,577
H25	364	1,415	48,801	17,660	17,261	22,955
H24	366	1,448	49,514	17,515	17,312	22,855
H23	365	1,437	48,885	17,355	17,306	21,992
H22	368	1,413	48,094	17,110	16,325	19,858
H21	369	1,403	47,271	16,487	15,893	20,093
H20	371	1,428	48,806	17,515	16,267	19,810
H19	370	1,381	46,821	17,019	15,498	20,509
H18	370	1,411	48,187	17,381	15,590	20,593

年度	班編制	活動場所	指導ボランティア
H28	1班：2.7名	2.7名につき1カ所	2.0名につき1名
H27	1班：2.7名	2.7名につき1カ所	2.1名につき1名
H26	1班：2.7名	2.8名につき1カ所	2.1名につき1名
H25	1班：2.8名	2.8名につき1カ所	2.1名につき1名
H24	1班：2.8名	2.9名につき1カ所	2.2名につき1名
H23	1班：2.8名	2.8名につき1カ所	2.2名につき1名
H22	1班：2.8名	2.9名につき1カ所	2.4名につき1名
H21	1班：2.9名	3.0名につき1カ所	2.4名につき1名
H20	1班：2.8名	3.0名につき1カ所	2.5名につき1名
H19	1班：2.8名	3.0名につき1カ所	2.3名につき1名
H18	1班：2.8名	3.1名につき1カ所	2.3名につき1名

2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について

(1) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18
① 職場体験活動	82.8%	82.5%	83.8%	83.5%	84.4%	83.5%	81.7%	82.6%	82.0%	82.7%	81.0%
② ボランティア・福祉体験活動	8.9%	9.3%	8.3%	8.0%	7.3%	7.8%	7.8%	7.0%	7.5%	6.6%	6.7%
③ 文化・芸術創作体験活動※1	3.9%	4.0%	3.4%	3.1%	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%	6.1%
④ 農林水産体験活動	2.3%	2.4%	2.2%	2.2%	2.4%	2.5%	2.7%	2.8%	2.9%	2.8%	3.1%
⑤ その他※2	2.1%	1.8%	2.3%	3.2%	2.2%	2.3%	4.0%	3.1%	2.8%	2.9%	3.1%

※1 ③「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

※2 ⑤「その他」には、「国際理解、科学技術、環境、情報」が含まれている。

イ 内容別（上位10の活動内容）

活動内容	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18
① 幼児教育	20.9%	20.8%	20.6%	21.1%	20.8%	20.7%	20.9%	21.1%	21.0%	21.0%	20.6%
② 販売	17.9%	17.6%	20.3%	19.6%	19.3%	19.2%	19.6%	19.3%	19.4%	20.3%	20.1%
③ 社会福祉施設	8.0%	8.0%	7.1%	6.9%	6.3%	6.5%	5.9%	5.4%	5.5%	5.0%	5.2%
④ 役所・消防署等	7.8%	7.7%	7.5%	8.0%	7.9%	8.4%	7.8%	8.0%	7.8%	7.8%	7.8%
⑤ 飲食店等	6.9%	7.0%	7.0%	6.5%	6.4%	6.6%	6.1%	6.4%	6.1%	5.5%	5.4%
⑥ 小学校・高校・大学	6.1%	5.9%	5.4%	5.5%	5.4%	5.0%	4.6%	4.6%	4.3%	4.2%	4.0%
⑦ 製造・建築	4.5%	4.7%	4.7%	5.1%	5.0%	4.7%	4.9%	4.9%	5.7%	5.8%	5.9%
⑧ 病院等	4.0%	3.8%	3.8%	3.7%	3.6%	3.7%	3.5%	2.9%	3.4%	3.3%	3.3%
⑨ 文化・芸術創作体験活動※	3.9%	4.0%	3.3%	3.1%	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%	6.1%
⑩ スポーツ・体育施設等	3.5%	3.6%	3.5%	3.7%	3.7%	3.8%	3.7%	3.7%	—	—	—

※ ⑧「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

ウ 本年度の特色ある取組

<p><地域限定の施設での体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水力発電所の運転・保守 ・震災記念公園でのアナウンス ・空港での旅客業務手続き体験 ・天文台での天体観測、研究活動 ・コウノトリ飼育体験 ・レスキュー犬の世話、散歩 ・オオサンショウウオの保護体験 ・ヨットのメンテナンス 	<p><地域特有産業等での体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎの収穫、出荷作業 ・牡蠣の養殖作業の実習 ・太鼓の皮張り作業の体験 ・杉原紙の製作過程の体験 ・播州織物の染色体験 ・赤穂緞通を織る体験 ・木綿保存会での体験 ・丹波立杭焼きの体験 	<p><その他特徴的な体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の史跡の講義・見学 ・遺跡の発掘調査、出土品の整理 ・就労支援施設での販売の補助 ・鑑識作業体験、逮捕術訓練 ・産婦人科での看護体験 ・郷土ゆかりの作家の資料整理 ・林業体験 ・高齢者の車椅子移動介助
---	---	---

(2) 生徒の希望達成度

・第一希望が叶えられた生徒は、70.2%である。

活動内容	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	H18
・第一希望が叶えられた生徒	70.2%	68.4%	68.1%	69.1%	70.0%	70.9%	70.6%	70.0%	70.7%	69.8%	72.0%
・第二希望が叶えられた生徒	17.4%	17.1%	18.9%	17.6%	17.1%	16.5%	16.2%	16.5%	16.1%	17.4%	16.6%
・第三希望が叶えられた生徒	5.9%	6.4%	7.1%	7.4%	6.8%	6.6%	6.5%	7.2%	6.6%	6.8%	6.5%
・その他	6.5%	8.1%	6.0%	5.9%	6.1%	6.0%	6.7%	6.3%	6.6%	6.0%	4.9%

(3) 第一希望にならなかった生徒への対応（複数回答）

- ・ 活動の意義の話 ……63.7%
- ・ 他の紹介及び新しい受入先開拓 ……61.7%
- ・ 時間をかけて話し合った ……49.7%

(4) 生徒の「やりたいことができる」活動場所の確保について

- ・ 新規の活動場所の割合（数） ……10.4%（1,789カ所）
- ・ 校区外の活動場所の割合（数） ……43.6%（7,535カ所）

(5) 事前指導について

ア 事前指導の平均時間数 ……11.4時間

イ 主な事前指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

・ 趣旨及び活動説明会	(98.8%)	・ 名刺作り等	(83.9%)
・ 希望調査	(98.8%)	・ 出発式	(80.1%)
・ 受入先への訪問	(98.2%)	・ ボランティア等との打ち合わせ	(77.5%)
・ マナー指導等	(93.6%)	・ 他学年、地域等への啓発活動	(63.2%)
・ 受入先の紹介等	(88.6%)	・ 福祉学習	(25.7%)

(6) 事後指導について

ア 事後指導の平均時間数 ……7.9時間

イ 主な事後指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

・ 礼状作成等	(99.1%)	・ 広報活動	(51.5%)
・ 感想文集作成等	(95.0%)	・ 発展学習	(40.4%)
・ 実践発表会	(87.1%)	・ 交流会	(17.5%)
・ 「トライやる」アクション	(52.9%)		

※ 発展学習実施校（138校）の内訳

情報学習	(68.8%)	福祉・健康学習	(70.3%)	人権学習	(50.7%)
防災学習	(33.3%)	環境学習	(28.3%)	平和学習	(23.2%)
国際理解学習	(17.4%)				

(7) 事前・事後指導における進路学習の実施（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

- ・ 事前指導のみ ……15.8%
- ・ 事後指導のみ ……11.1%
- ・ 事前指導・事後指導どちらも実施 ……64.0%
- ・ 実施していない ……9.1%

(8) 「トライやる・ウィーク」における校種間連携について

小学校と連携した取組の実施	59.9%	高等学校と連携した取組の実施	8.5%
---------------	-------	----------------	------

〔連携した内容〕

- ・ 校区内全ての小学校が「トライやる・ウィーク」の受入先となっている。
- ・ 小学校で、中学校生活についての説明発表をした。
- ・ 実践発表会に児童が出席した。
- ・ 新入生の入学説明会の学校紹介の中で、「トライやる・ウィーク」の活動を紹介した。

(9) 不登校生徒への影響（市立特別支援学校は除く）

- ・1年生の時に不登校の生徒（年間30日以上欠席）のうち、「トライやる・ウィーク」に全日参加した生徒は、428名（全体の42.9%）であった。
- ・実施後1ヵ月の状況は、191名（全日参加生徒の44.6%）の生徒の登校率が上昇した。

	調査校	在籍生徒数	左のうち1年生の時に不登校の生徒数	全日参加生徒数	実施後1ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒	実施後2ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒
H28	359校	46,930名	997名	428名	191名	176名
				42.9%	44.6%	41.1%
H27	346校	47,876名	994名	421名	126名	139名
				42.4%	29.9%	33.0%
H26	346校	48,548名	889名	360名	151名	136名
				40.5%	41.9%	37.8%
H25	347校	49,128名	977名	442名	188名	178名
				45.2%	42.5%	40.3%
H24	348校	49,399名	984名	457名	175名	157名
				46.4%	38.3%	34.4%
H23	348校	48,781名	916名	427名	163名	154名
				46.6%	38.2%	36.1%
H22	350校	48,614名	887名	344名	128名	129名
				38.8%	37.2%	37.5%
H21	352校	48,021名	934名	383名	152名	143名
				41.0%	39.7%	37.3%
H20	354校	49,323名	948名	405名	151名	139名
				42.7%	37.3%	34.3%
H19	353校	47,369名	965名	442名	159名	144名
				45.8%	36.0%	32.6%
H18	354校	48,677名	928名	416名	163名	150名
				44.8%	39.2%	36.1%

3 市立特別支援学校の活動について(平成 17 年度から実施)

(1) 実施校数 17 校

6 月を中心に実施した学校：6 校、11 月を中心に実施した学校：11 校

(2) 実施期間 平成 28 年 5 月 30 日～ 11 月 18 日

(3) 参加生徒数 150 名 (55 クラス、在籍生徒数 154 名)

(4) 班数 120 班 (1 班平均 1.3 名)

(5) 指導ボランティア数 174 名 (生徒 0.9 名につき 1 名)

(6) 介助補助員数 96 名 (生徒 1.6 名につき 1 名)

(7) 活動場所数 109 ヲ所

居住地中学校区内で活動した生徒の割合 22.7% (34 名/150 名)

	実施校数	2 年生		班の数	活動場所 の数	指導ボラン ティアの数	介助補助員 の数
		学級数	生徒数				
H28	17	55	150	120	109	174	96
H27	18	46	135	109	109	234	109
H26	16	45	146	103	182	201	86
H25	17	37	112	58	86	153	51
H24	18	41	115	85	119	137	55
H23	17	41	104	68	96	149	89
H22	18	38	104	68	93	145	118
H21	17	37	97	62	104	159	92
H20	17	38	111	65	100	183	98

	班編制	活動場所数	指導ボランティア数	介助補助員数
H28	1 班：1.3 名	1.4 名につき 1 ヲ所	0.9 名につき 1 名	1.6 名につき 1 名
H27	1 班：1.2 名	1.2 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H26	1 班：1.4 名	0.8 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.7 名につき 1 名
H25	1 班：1.3 名	1.3 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	2.2 名につき 1 名
H24	1 班：1.4 名	1.0 名につき 1 ヲ所	0.8 名につき 1 名	2.1 名につき 1 名
H23	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H22	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	0.9 名につき 1 名
H21	1 班：1.6 名	0.9 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名
H20	1 班：1.7 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名

(8) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20
① 職場体験活動	64.2%	58.3%	53.4%	61.5%	62.9%	55.8%	45.5%	51.9%	54.9%
② ボランティア・福祉体験活動	16.0%	16.9%	19.5%	13.1%	12.7%	23.5%	16.5%	16.4%	20.2%
③ 農林水産体験活動	8.7%	15.2%	12.7%	7.0%	11.1%	12.7%	15.6%	13.5%	9.1%
④ 文化・芸術創作体験活動	4.9%	5.8%	2.5%	8.9%	9.1%	7.3%	6.5%	9.1%	8.7%
⑤ その他	6.1%	3.8%	11.9%	9.6%	4.2%	0.8%	16.0%	9.1%	7.1%

イ 内容別 (平成 28 年度上位 6 の活動内容)

① 社会福祉施設	16.0%	④ 農林水産体験活動	8.7%
② 製造・建築	15.1%	⑤ 役所・消防署	7.8%
③ 水族館	9.3%	⑥ 販売	5.8%

ウ 本年度の特色ある取組

・水族園	・図書館	・介護体験	・消防署
・福祉体験実習	・作業所での作業補助		

II 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション）実施状況について

(1) 実施校 215校 59.9% (H27 229校 63.3%)

(2) 参加生徒数 ()内は特別支援学校生徒参加数：内数

学年	参加生徒数	1校当たりの参加生徒数
1年生	18,248名(27)	84.9名
2年生	20,595名(55)	95.8名
3年生	15,383名(38)	71.5名
合計	54,226名(120)	252.2名

(3) 活動内容について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答あり)

活動区分	実施校数	割合	実施数	割合
地域の祭り等を企画、運営する活動	114校(5)	53.0%	304(2)	30.8%
清掃活動やボランティア等を諸団体と連携して行う活動	168校(2)	78.1%	525(2)	53.2%
「トライやる・ウィーク」の継続的な活動	61校(11)	28.4%	158(4)	16.0%
合計	※母数は、実施校数		987(8)	100%

(4) 活動の内容例

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭り、運動会、音楽会等の企画 ・地域伝統行事への参加及び運営補助（盆踊り、しめ縄づくり、餅つき、とんど祭り 等） ・地域イベント行事への参加及び運営補助（マラソン大会、地域のフェスティバル 等） ・清掃活動、クリーンキャンペーン、資源ごみ回収、海岸清掃 ・ふれあいコンサート、定期演奏会 ・献血推進活動 ・観光PRと観光ガイド ・国際交流（ニューイヤーパーティー） ・敬老会、デイサービスボランティア、老人ホームでの食事の配膳 ・こども園夏祭り、子育てボランティア体験、本の読み聞かせ、紙飛行機教室 ・ひまわり植栽作業、ねぎ植え、稲刈り

(5) 実施時期について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答あり)

	実施校数	割合	実施数	割合
土曜、日曜日等を利用して実施	189校(6)	87.9%	639(15)	64.5%
夏季休業中に実施	137校(1)	63.7%	328(3)	33.1%
冬季休業中に実施	15校(0)	7.0%	21(0)	2.1%
春季休業中に実施	2校(0)	0.9%	3(0)	0.3%
合計	※母数は、実施校数		991(18)	100%

[資料1] 平成28年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施後アンケート調査の結果（調査実施校数 342校）

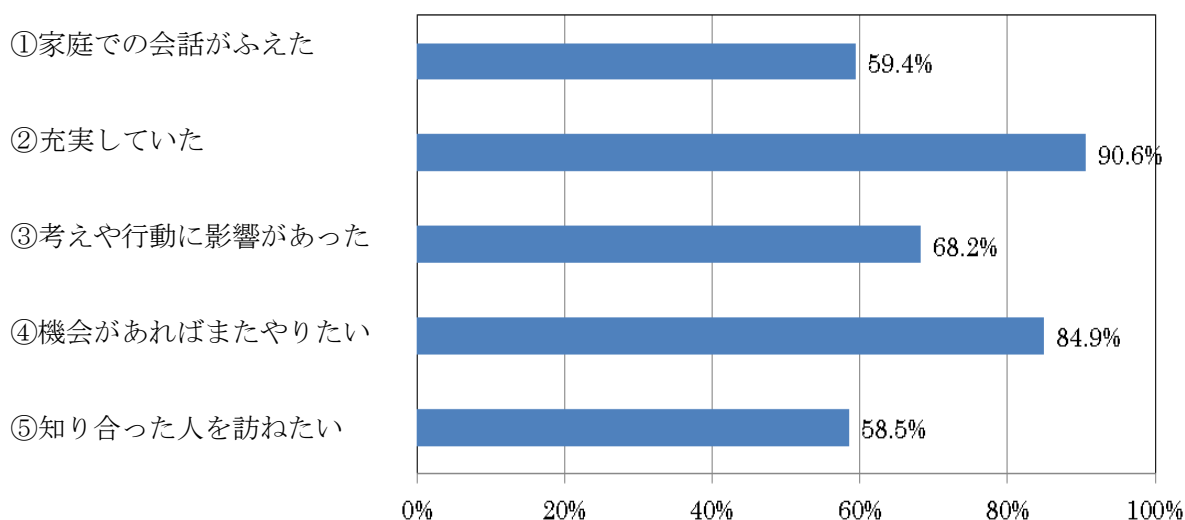
- 1 生徒アンケート（回答数 44,709人）
- 2 保護者アンケート（回答数 37,356人）
- 3 関係者アンケート（回答数 14,080人）
- 4 教職員アンケート（回答数 3,283人）



1 生徒アンケート（回答数 44,709人）

質問項目	平成28年度	平成27年度
働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	91.1%	91.4%
コミュニケーションの大切さを感じた	79.9%	78.9%
社会のルールやマナーの大切さを感じた	76.6%	75.9%
大人の人の優しさを感じた	71.7%	71.2%
人のために役に立つうれしさを感じた	70.0%	71.1%
保護者や大人の人への感謝の気持ちを感じた	69.4%	68.1%
達成感や自信を感じた	69.3%	67.9%
人とのふれあうことの楽しさを感じた	68.3%	68.5%
学校で学んだり活動する目的の大切さを感じた	52.3%	52.8%

- （設問）
- ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、家庭での会話がふえた。
 - ②自分にとって、「トライやる・ウィーク」の一週間は充実していた。
 - ③「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考えや行動に影響があった。
 - ④「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があればまたやってみたい。
 - ⑤「トライやる・ウィーク」が終わってからも、「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちを訪ねたいと思う。

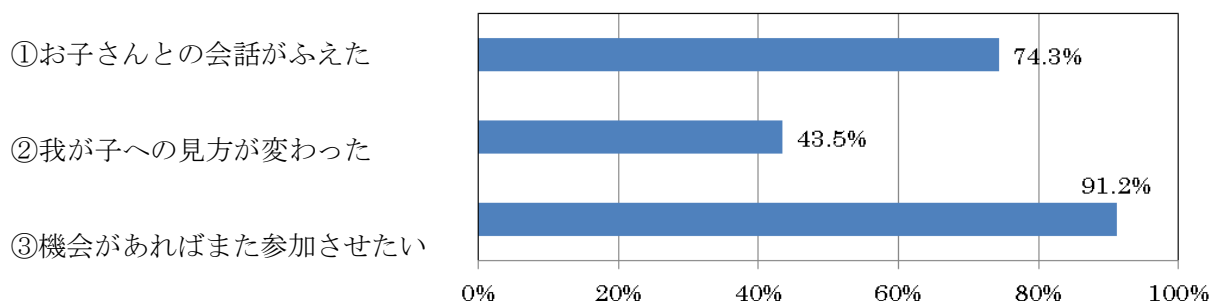


○生徒の感想より

- ・自分の未熟さや自分で考えて行動することの難しさを感じた。
- ・仕事はしんどかったけれど、お客さんとのコミュニケーションを通し、達成感が得られたので楽しかった。
- ・将来の夢に近づこうと、さらに思う気持ちが強くなった。
- ・声を出したりして自分の今の気持ちを伝えることはとても大切だと思った。
- ・親への感謝の気持ちが強くなりました。毎日、私たちのために働いてくれていることが、よく分かりました。
- ・地域の人たちの優しさや中学生に対する期待の大きさを感じた。
- ・社会で働くことの楽しさ、大切さを感じると同時に、厳しさも深く感じた。将来の夢に少し近づけた。

2 保護者アンケート（回答数 37, 356 人）

- （設問） ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、お子さんとの会話がふえた。
②「トライやる・ウィーク」の活動を通して、我が子への見方が変わった。
③「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があれば、また参加させたい。

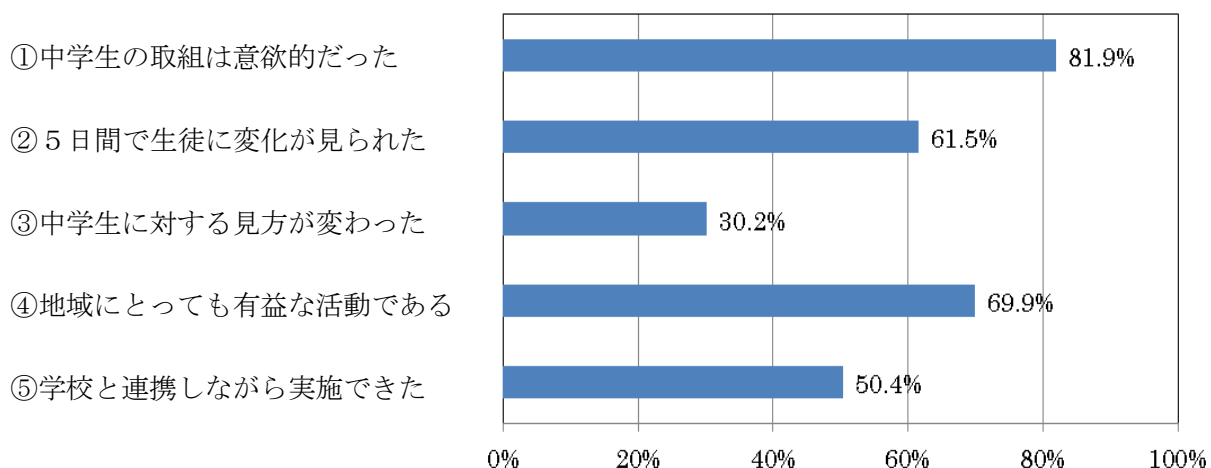


○保護者の感想より

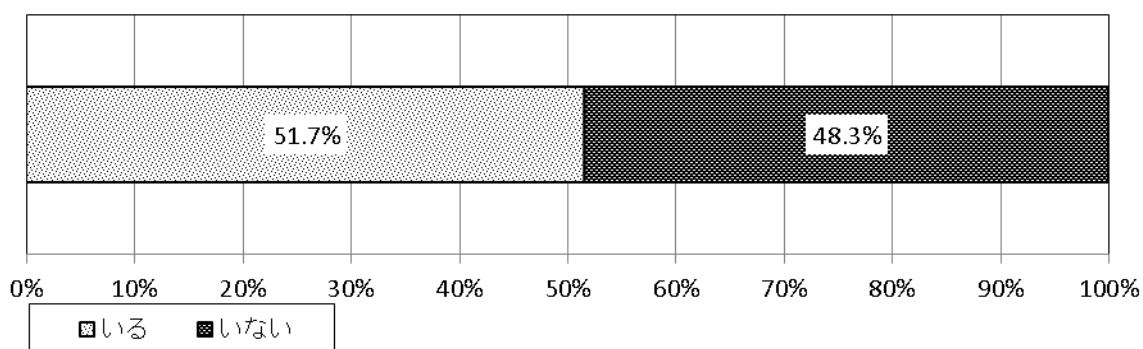
- ・人見知りで家族以外の大人と話す事が苦手な子どもだったのですが、たくさんの方々と話すことができ、子どもの成長を感じることができて嬉しかったです。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。
- ・「トライやる・ウィーク」に行きだしてから、子どもが家で仕事のことをよく口にするようになりました。親の仕事にも興味を持ったみたいで、会話が増えました。
- ・自分の思いによるものの見方ばかりしていた子が、いろいろなことを経験する中で、相手の立場を理解することができたり、コミュニケーションをとることの難しさなどを感じたりしているのは、他にはできない大切な経験だと思います。
- ・仕事への責任感や喜び、成し遂げることの難しさを感じたようですが、学校では味わえない感動があったようです。
- ・5日間いつもと違う環境で、体力的にも精神的にも少し疲れたようでしたが、心はすごく満たされていたようです。「仕事」というものの楽しさと、大変さを感じとったようでした。
- ・「トライやる・ウィーク」で、日常経験することのできない社会のルールなどを体験することができ、よかったですと思います。家庭では教えてやれないことなど、指導ボランティアの方との関わりで本人も学ぶことがたくさんあったと思います。「トライやる・ウィーク」を通じ、親子共々成長させていただきました。
- ・働くことの意味や仕事とは何かを考えるきっかけになり、夢がふくらむ機会となりました。成長できた5日間でした。
- ・自分が勉強することの意味、大切さを知ることにつながり、中だるみする2年生の生活にいい刺激になりました。
- ・活動場所に行かせていただくことで、時間を守ること、家族以外の大人の温かさや感謝の気持ち、仕事の大変さを日々口にしていました。酪農の仕事に参加したということもあり、命を頂いている、自分が食事をするまでに大勢の方が関わっていることも分かり、親に感謝の言葉を素直に話してくる息子に驚きました。

3 関係者アンケート（回答数 14,080人）

- （設問）①「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。
 ②「トライやる・ウィーク」の5日間で生徒に変化が見られた。
 ③この一週間で中学生に対する見方が変わった。
 ④「トライやる・ウィーク」は地域にとっても有益な活動である。
 ⑤学校と連携しながら実施できた。



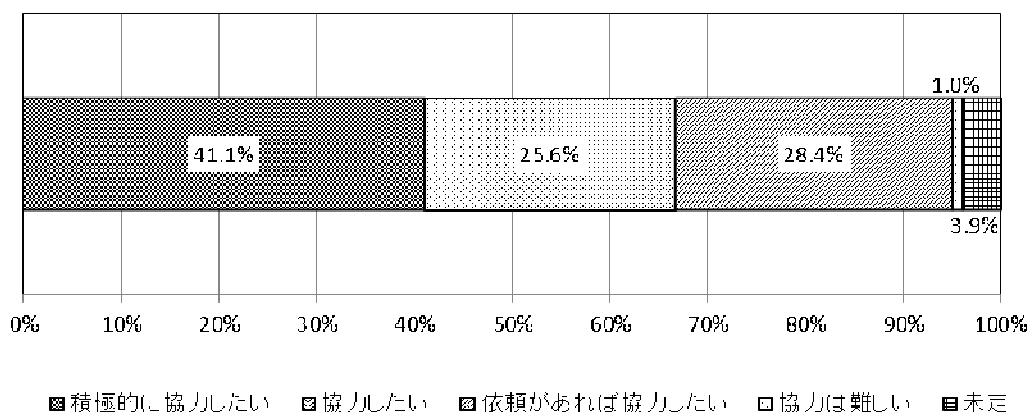
（設問）指導された方の中に中学生時代に生徒として「トライやる・ウィーク」を体験された方はいますか。



○ トライやる・ウィークを体験していた指導ボランティアの感想より

- ・「トライやる・ウィーク」を体験することにより、その職業のより深い部分を知ることができたり、より一層夢を間近に感じることでできたりする体験なので、中学生にとってはとても良い経験だと思います。
- ・私自身も「トライやる」での活動をきっかけに、この職業に就いています。中学生にもこの体験がよいきっかけになればと願っています。
- ・自分が受け入れる事業所の立場になることで、中学生当時の気持ちを思い出したり、受け入れる側の見えない苦勞を知ったりすることができました。
- ・指導する立場になると、さらに「トライやる・ウィーク」の必要性を感じるようになりました。社会人になる前に、社会や仕事を体験することにより、マナーや人とのつながりを学ぶ場を与えてもらっていたんだと、再度認識することができました。

(設問) 来年度以降も、「トライやる・ウィーク」にご協力をお願いできますか。

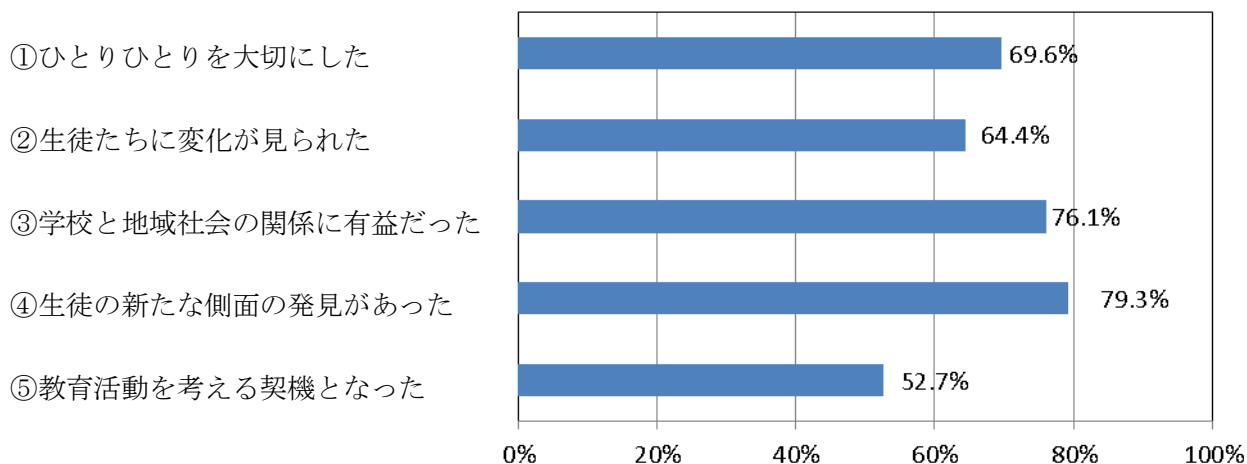


○ 指導ボランティアの感想より

- ・中学生が仕事場に入ってくることで、職員にとってもいろいろな意味で刺激を受け、お互いに学ぶことがあります。生徒たちにとっては、学校から離れ、視野が広がり、成長できると思います。
- ・中学生が職場体験に来ることで、自身の仕事の振り返りができました。挨拶や礼儀など、学校での事前指導がなされ、実践している中学生に感心しました。
- ・社会体験をすることで子供たちは新しい発見があったと思います。社会全体で子どもを育てるという視点から大事な事業であると感じます。
- ・どの仕事に将来つくにしても、「トライやる・ウィーク」で学んだことは必ず生かせると感じます。各事業所について負担はありますが、それ以上に生徒一人一人の人間としての成長や学びの場につながる有意義な活動なので、協力していきたいと思います。
- ・初めての社会に出て、様々な体験をすることで学ぶことが多くあると思う。この体験を通して、自分の将来について考え、夢に向かって頑張る生徒の皆さんの手助けができればと思うので、今後も協力していきたいと思う。
- ・中学生の視点にこちらにも発見があり、楽しく遊んでいる姿を見てとてもほほえましく感じました。生徒たちの発想力の豊かさや観察力の鋭さに感心しました。中学生の考えていることを聞くことができ、自分にとっても良い体験になりました。
- ・未知なるものへの興味から積極的に質問をしてくる中学生に、改めて教えることの喜びを感じました。また、彼らの知識に基づいて、理解できるように教えることは、興味深く、当方の技量向上にもなったと実感できました。
- ・人はそれぞれ得意、不得意はありますが、社会には、自分を生かすことができる場所があるということを知ってほしいという思いで受け入れました。
- ・生徒たちがとても熱心に取り組んでいた。地域に根付いた活動になってきている。
- ・来館者に対してのあいさつもでき、感心した。指導者の指示通りに行動もでき、仕事もとても丁寧にしてくれた。生徒と企業はもちろん、企業と学校が関われる意義ある機会となった。

4 教職員アンケート（回答数 3, 283 人）

- （設問） ①ひとりひとりを大切にしたい「トライやる・ウィーク」が実施できた。
②「トライやる・ウィーク」を通して生徒たちに変化が見られた。
③「トライやる・ウィーク」が学校と地域社会の関係にとって有益な活動であった。
④「トライやる・ウィーク」を通して生徒の新たな側面などの発見があった。
⑤「トライやる・ウィーク」が教育活動を考える契機となった。



○ 教職員の感想より

- ・ 地域の方々に見守られ、活動を通してコミュニケーション能力を向上させることができ、自信に満ちあふれた姿を見ることができた。有意義な時間であったと思う。
- ・ 「トライやる・ウィーク」をきっかけに、自分の進路について考えている生徒が多くいた。
- ・ 生徒が家庭での会話が増えたと言っているのを聞いて、活動によって得られる結果が学校以外でも出ていることに嬉しく思っています。
- ・ 事前指導から、社会とのかかわりを学び、職場を直接体験できるこの行事を大切に受け継いでいかなくてはならない。また、事後指導の発表会も貴重な体験となっている。
- ・ 不登校傾向の生徒が、5日間通して活動できたことは、本人や家族にとって明るい話題になった。
- ・ 指導ボランティアの方の温かい声かけが、生徒たちの活動の一番のモチベーションになっていた。
- ・ たくさんの事業所から「学ぶことがあった」、「職場が明るくなった」、「元気をもらった」といった言葉をかけてもらった。地域社会と良い関係が築けたと思う。
- ・ 働くという経験をしたことや、地域の人と触れ合ったことで心の成長が見られ、将来のことを考えるきっかけとなる良い体験になったと感じました。
- ・ 社会の一員として活動に取り組むことによって、責任の重大さを感じることもできたと思う。

[資料2] 平成28年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員会について

1 校区推進委員会の設置状況

すべての公立中学校、県立中等教育学校、市立特別支援学校に設置されている。

2 校区推進委員会への参加者数及び内訳（平均人数）

学校関係	P T A関係	地域団体代表等	合 計
6.0名	6.6名	6.5名	19.1名

3 推進委員会の機能の状況

よく機能して いる	概ねできて いる	あまりできて いない	ほとんど できていない	合計
21.6%	57.3%	19.0%	2.1%	100%

4 校区推進委員会が行っている活動例

・保護者、地域への啓発・協力依頼	・・・	79.8%
・受入先の開拓	・・・	70.8%
・受入先の検討	・・・	59.6%
・巡回訪問	・・・	53.2%
・生徒の活動についての検討	・・・	45.6%
・事前・事後指導における支援	・・・	44.4%
・アンケート・まとめ	・・・	26.3%
・取材	・・・	17.0%